

受講番号 18036 学校名 高岡高等学校 氏名 廣瀬 智美

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 類型(進学型) 生徒数 25 名
科目名 ライティング 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 DAILY ENGLISH WRITING (池田書店)

クラスの様子・特徴

進学型ホームの選択ライティングのクラスではあるが、必ずしも進路に英語が必要、あるいは英語が得意または好きな生徒ばかりではなく、授業への意欲・関心はあまり高くない。生徒間の英語の習熟度の差が大きく、授業のレベル設定が難しい。

問題の確定

語彙や文法など、中学既習事項が身についていない生徒が多い。また、学習意欲が低く、家庭学習の習慣もほとんどない。

予備調査

A 授業の観察

生徒自身で英作文に取り組ませても、何からどう手をつけてよいのか分からない様子である。教員が、文の構成や語句などについてヒントを与えると、糸口をつかんで、ある程度できるようになる生徒も多い。和英辞書を利用する生徒が少ない。

B 生徒による授業評価

授業のやり方・進め方に関しては、概ね肯定的な評価が多かったが、授業内容を理解できていないとはいえない。理解するためには自分自身の努力が必要と感じている生徒も多い。1学期に文法の基本事項を学習したことで、英語の基礎が身についたという生徒もいる。

C 学力データ

英検3級の過去問題から抜粋した並べ替えの問題により、英語力を診断したが、平均43%の正答率であった。全問正解の生徒もいれば、正答0の生徒もいる。総じて、中学卒業レベルの英語力が身につけているとはいえない。

リサーチ・クエスチョン

基礎的な英語の力が定着しておらず、英語の学習到達度が極めて低い生徒も混在するクラスで、短くても正確な英文が書けるようにするためには、どのような指導を行えばよいのか。

仮説・実践・検証

仮説1

身近なことを題材にした基礎的な短文から英作文の練習を始めれば、もう少し英文を書くという意欲が湧くのではないかと。

実践1

主語を、一人称や家族・友人・先生などに設定して、学校や家庭で実際に起こりそうなことを英語で書かせる。短い単文で修飾語句は最小限にとどめる。

検証1

学校や家庭に関する話題のほか、スポーツやタレントに関する話題なども取り入れてみた。教科書の練習問題にあるような英作文よりは、興味を持って積極的に取り組む姿も見られた。短い単文に限定したことにより、「できそうだ」「やってみよう」という意欲が持てたかもしれない。

仮説2

簡単な英作文を反復的に行うことによって書く力が定着するのではないかと。

実践2

基本とする文を1つ提示し、その文の各要素(主語・動詞・目的語・修飾語句等)を変えたり、時制を変えたりしながら英作文の練習をし、英文のパターンを覚えさせる。

検証2

市販のドリル的問題集を用いて、主に主語に対応した動詞の変化や時制による動詞の変化を習得させようとした。少し退屈していた生徒もいたようではあるが、英語の力があまりついていない生徒にとっては、中学英語の復習として役に立ったようだ。

仮説3

常に主語と動詞を意識させながら英作文の練習を行うと、書く力が伸びるのではないかと。

実践3

日本語を英文に直す際に、何を主語にするか、主語に対応する動詞は何かを考える訓練をさせ、日本語を英文として再構成する力をつける。

検証3

英文を書く時にはまずSVということを繰り返し強調し、単純な構成の文しか取り上げなかったため、今回実践した範囲の英作文においては、主語と動詞についてはある程度理解できていたようだ。

研究の成果

今回のアクションリサーチで、初めてライティングの効果的な指導法を研究することができた。これまでは、教科書の内容を説明し、練習問題を解くだけの授業になりがちであったが、それで本当に英文が書けるようになるのが常々疑問を抱いていた。今回、教科書の使用頻度は低くなったが、生徒が本当の意味でのライティングに取り組み、めざましい進歩があったとはいえないが、英作文に自信が持てたという生徒も何人かいたことは良かったと思う。また、和英辞書の使用により、文の作り方そのものに集中させることができたのも良かった。

今後の授業改善の課題

ライティングにおいては、最初に文法の基礎事項(文法用語や品詞・文型等)をマスターさせることが不可欠だと感じた。今回はあまり時間を割くことができなかったが、次回はもう少し徹底させたい。また、学習した時点では習得していた事項でも、時間が経つと忘れてしまう(定着しない)傾向にある。授業の中では復習に使える時間も限られているので、有効な家庭学習課題を与えるなどして定着を図っていきたい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-852-1168

電子メール

satomi_hirose@kt2.kochinet.ed.jp